



# 卒業特集

卒業とは、学校生活の区切りでの生活です。新郷校でおそった教えを守り、更に学習に、スポーツに、小学校六年の、ひと区切りを終えることができた。四月からは、中学校の区切りです。

## 求める人間像

中森真治郎 正直で、よく働く人になりたいたい。

稲崎 恭彦 清潔で、がんばり強い、りっぱな人になりたい。

小本 英典 人から信用される、正直で、まじめな人になりたい。

小島 範久 正直で、社会に役立つ、まじめな仕事熱心な人。

青木 雅信 みんなから、代表に選ばれよう、まじめな人間になりたい。

小島 浩一 人に親しまれる、正直な人になりたい。

宮崎 和彦 まじめにはげみ、社会に役立つ人間になりたい。

小島 幸恵 親切で、みんなに好かれる、ほがらかな人になりたい。

藤島三千代 正直で、いつも明るく、親切で、まじめな人になりたいたい。

坪田江津子 人に喜ばれることや、親切なことをしてきたい。

八十島美奈子 優しい性格で、勇気のある人になりたい。

橋本ひろみ 正直で、素直な明るい性格の人になりたい。

青木さとみ ほがらかで、明るく、人には親切にしてあげたい。

高戸 静恵 友だち同志、楽しく、明るく、責任感のある人になりたい。

山崎 明美 明るく、正直で、だから好かれる人になりたい。

藤崎 麗湖 規律正しく、何んでも努力する人になりたい。

## 卒業を迎えて

北本堂 篠崎 照夫

昭和三十七年四月長男が入学してより十年、「光陰矢の如し」早くも今年長女が卒業を迎える事になりました。その間、子供が御世話になりました。諸先生方の御尽力に、又暖かい御気持ちで育てて下さいました愛護会の方々におすがり致しましたのみで、何のお手伝いもできなかったことを、紙上をお借りして、深くお詫言申上げますと共に、心から厚く御礼申し上げます。

新しい時代と共に、教育方針も異なりましようし、又、子供そのものの性格も人によって違うものと存じますが、過去六年間、色々とお教え戴きました諸先生方の御恩は、子供ながらに、終生忘れず、心に残すべき思い出として、心に残します。

今年を最後にお別れと思えますと、自分の身近にありながら、遠くに離れていく様な寂しい気がしてなりません。

校長先生はじめ諸先生方には、種々お世話に相なりましてありがとうございます。今後共社会の発展のために、教育に御尽力下さる様お願い申し上げます。御校の益々の御発展を御祈り致します。

## 卒業にあたって

中浜 藤島 サ ス エ

時の過ぎるのは、早いもいカバンをさげて、可愛い姿でこの学校に入学した時数えると、十二年間、子供達がお世話になりました。振り返ってみますと、新しい

## 思い出

二年 竜田 はる み

六年生のおにいさん、おねえさん、ごそきようおめでとございませう。

わたしは、ずっと前、体力そくていの時のことを思い出します。

わたしが、しばふのまわりを五回走った時、どれだけの時間がかかったかをわかってもらおうのにだれにたのむうかと思いました。そしておねえさんに

「何分何びようかみて。」

「妹をみるなんていやあ。」

「何分何びようかみて。」

「二三分三びようや。」

## 御卒業おめでとう

五年 吉 江 孝 行

卒業生のみなさん、おめでとうございませう。みなさん、この学校で、六年間通してきました。そしていろいろなことがありました。風の強い日には、先頭に立ち、みんなを無事学校へ送ったり、雨の日は小さい子に自分のかさを貸してあげたり、自分のことはかまわず、みんなと守ろうとする姿を見て、すっかり感心してしましました。大野での合宿の時は、夜おそくまで、起きていて、先生におこられたことを今も、はつきり覚えています。また、部活動やクラブの活躍や、行動が今でもはつきり目の中に残っています。そして、学習発表会の時や運動会の時は、きれいに、舞台やテント等を用意して、立派に成功されたことに感謝しています。これからは、

## 子ども会

### 卓球大会に女子次勝

二月二十五日(日)午前八時半より、芦原中学校体育館で、町内子ども会卓球大会が開かれました。

参加チームは男子二十四チーム、女子十二チーム、計三十六チームが熱戦を繰りひろげました。

新郷校下からは、男子二チーム、女子一チームが参加し、女子は次勝というりっぱな成績をおさめました。

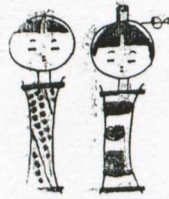
試合は、抽選でのブロック別のリーグ戦でおこなわれました。

新郷チームの女子は、Aコートで、三対二、四対一、五対〇、三対二、五対〇と五チーム全体から勝星をあげ、Aコートで優勝し、決勝戦で次勝になったわけです。

去年は三位でしたが、今年はいく頑張りしました。

開会式で、次勝のメダルを首からかけてもらい、大変うれしそうだったのが、印象的でした。

男子のAチームは、Cコートで、四勝一敗でよく頑張ったが、惜しくも決勝に残れませんでした。



# 児童の家庭生活

S.48.3.13 新郷小愛護会文芸部

調査日 S.48.2.18~19 (参考資料. 教育技術小4.)

調査対象 新郷小学校児童全員

子どもは、一日の生活の半以上を家庭で過ごしています。ですから、子どもの人間形成の上で、家庭生活の占める重みは大きいのです。とくに親子関係は重要になってきます。ですがその生活がどのようななされているか 案外知らないのが私たちです。そこで 勉強を除いた親子関係がどのようなであるか、特に お手伝い、おこづかい、家族旅行やスポーツ、食事などについて、その実態を知り、全国的傾向とくらべ、新郷小の特徴をつかみ、今後の教育、育児に役立てようという目的で、本調査をしました。

方法としては、各学年とも同じ調査用紙で、個人が該当のものに○をつけ、それを学年別、男女別に集計しました。

女子に多い お手伝い。  
食事、掃除、るすばん

新郷小のお手伝いの男女差は 図1. のようです。男子よりも 女子が多くお手伝いをしています。特に 食事、掃除、るすばんなどが多く見られ、男子に多いのは おつかい、車の牛入れ、家の仕事の手伝いぐらいで、大部分は女子が多いです。学年別にみると、高学年になったから 多くなったとはいえないようです。全体的に あまりお手伝いをしていないようです。4年生の全国の調査とくらべても 少ないようです。とくに基本的生活に必要なことであるふとんのあげおろしなど、高学年になってもほとんどしていない人には 驚かされます。

図1. おてっだいする子の男女差 (新郷小)

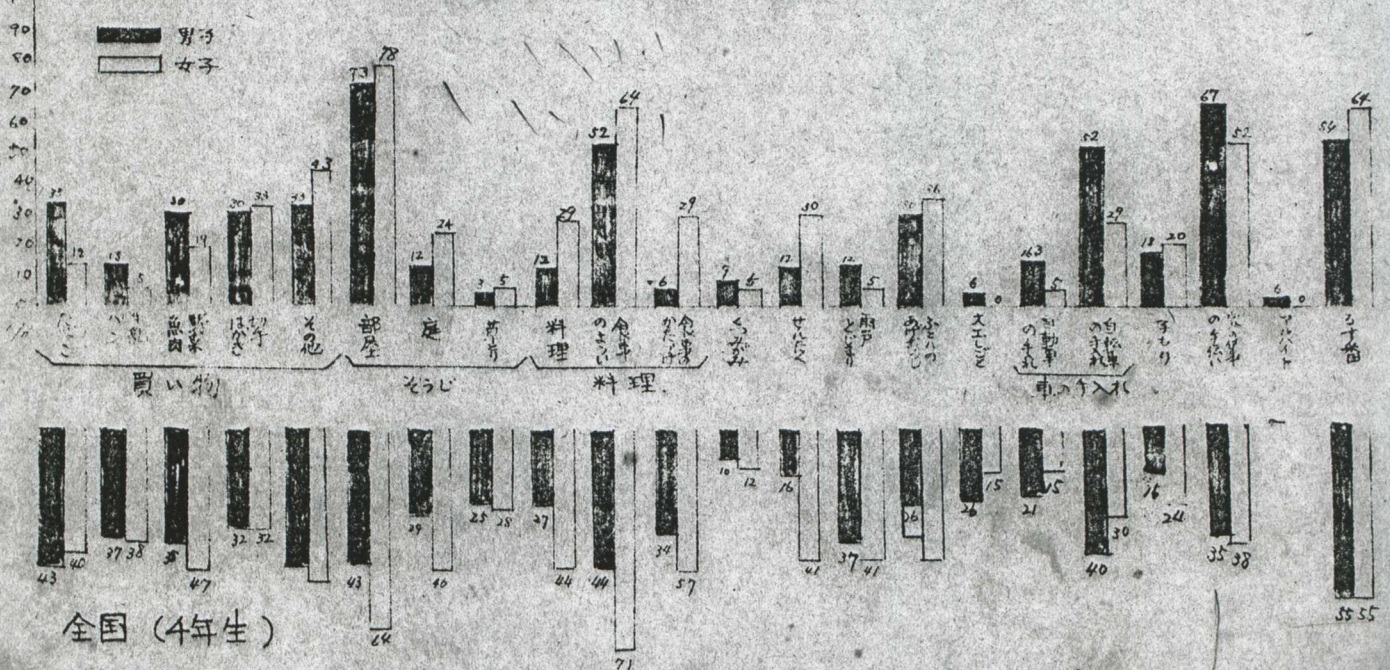


表1. (a) おこづかいの決め方 (新郷小)

学年	1	2	3	4	5	6
毎日	0	0	0	0	0	0
毎週	1	0	0	0	0	0
毎月	2	2	0	0	4	7
不定	8	11	8	13	6	9

(全国)(b)

学年	1	2	3	4	5	6
毎日	24	22	16	16	8	4
毎週	14	10	7	13	7	6
毎月	7	14	23	37	40	50
不定	55	54	54	34	45	40

### おこづかい

おこづかいをどのように決めているかを調べてみますと、表1. のようで、ほとんどの子がいつでもほしい時にお金をもらっているようです。

表2. おこづかいの使い方 (新郷小)

	男	女	計
おやつ	17	22	39
まがの本	11	15	26
スポーツ	7	0	7
おもちゃ	8	0	8
雑誌本	2	0	2
貯金	16	28	44
学用品	19	24	43
趣味	3	7	10
その他	8	14	22

その金額は合計してみないからわかりませんが、相当高額であると思われます。高学年で月決めしている子の金額をみても 300~1000円までいますが、1000円の子が4人もいます。

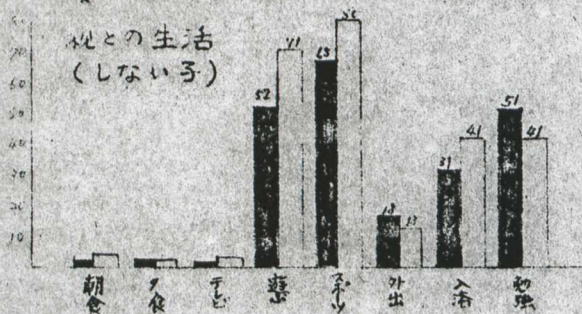
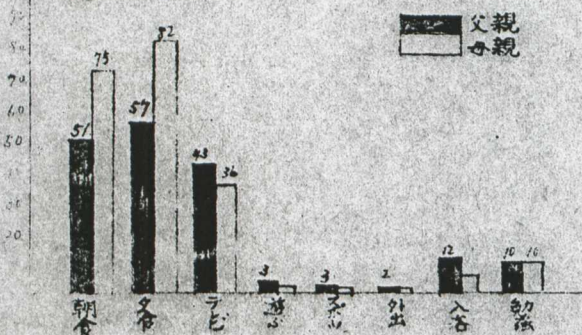
全国をみますと(b)のように、低学年では毎日が比較的多く、その額も10円20円が多いです。高学年になると月決めが半数近くになり、6年生では600円と決めている子が多いようです。

### 使い方

ベスト3は 貯金、学用品、おやつです。この傾向は1年から5年まで共通していますが、6年になると趣味が5割でてきます。

このことから雑誌やおもちゃなど、欲しい時に買ってもらえるので自分で買わず、おやつなどは現物でなく、お金で与えられていると思われます。男女別にみますと、一般に男子は女子に比べておもちゃ、スポーツなどに関心を持ち、女子はやはり小学生から堅実な貯蓄型のようなようです。

図2. 親との生活 (いつもする)



### 親子のつながり

母と子はどの家庭でも密接なつながりがありそうですが、新郷では母親とでも2割もの子がいつもいっしょに食事をするとはかぎらないのです。父親とでは半分になってしまいます。

父と子がいつも遊ぶ子は全校で1人しかいません。5割もの子がほとんど遊んでいません。母と子ではとみると、なお一層7割の子が遊んでいません。おかあさんも又働きバチでしょうか。

スポーツなどもほとんど少なく、全くしない方が大半です。

入浴を いっしょにする子は 小学1,2年でも半数ぐらいで 5,6年となってくると ほとんどなしです。低学年などいったい誰と入るのでしょうか。なぜか 首すじのよごれと関係があるようです。性別では 女子が父と いっしょに、男子が母と いっしょに 入浴しなくなってきました。全国的にもこの傾向がみられますが 特に新郷では 親と子のスキンシップも少ないようです。

### 家族ぐるみのレジャーは？

表3.

	年 5回以上	2~4回	1回	なし
人	20	49	2	2

家族そろって 旅行、ドライブ、海水浴、どこかへ遊びに行ったかの調査では 表3のようです。

ほとんどの子が 2~4回ぐらいはいますが 旅行となると あまりないようです。

### 全体に 感じたこと.

親子のだらんの機会が少ないことが 目立ち、親と子の接触が あまりないと思われます。例えば お手伝いにしても いっしょに手伝わせながら 生活でのしつけを教えることも少なく、お金は、気ままに計画性もなく 与えて、この子たちが大きくなったら 親のことをどう思おうでしょう。あたたかい思い出が なつかしくわきでてくるでしょうか。父親だけでなく 母親までが 子供とのみそを 作っていくように思えてならないのです。